

JBSGO

第27回
日本産婦人科乳腺医学会学術集会
イブニングセミナー 1



乳癌患者のヘルスケアと エクオールの可能性

～内分泌療法とBone Health～

日時 2021年3月13日(土) 16:00~17:00 (会場1)

会場 Webによるオンライン開催 (Zoom使用)

※ 参加登録期間: 2021年1月11日(月) ~ 3月11日(木)

座長 手稻溪仁会病院 院長

成田 吉明 先生

演者 横浜市立大学産婦人科 客員准教授

善方 裕美 先生

日本専門医機構産婦人科領域講習 (申請中) ・ 日本医師会生涯教育制度参加証 (申請中)

「乳がん患者のヘルスケアとエクオールの可能性 ～内分泌療法と Bone Health～」

乳がんは好発年齢が40～50歳代にあり、術後内分泌療法で長期にわたって低エストロゲン状態となるため、更年期障害や脂質代謝異常に加えて骨粗しょう症や骨折の発症リスクが急激に高まる。Cancer treatment-induced bone loss (CTIBL) と呼ばれる骨量減少の有害事象への対策も注目されるようになり、2020年には日本骨代謝学会より癌治療関連骨減少症 (CTIBL) 診療マニュアルが出された。また、乳がんは骨へ転移しやすく、疼痛、骨折、高カルシウム血症などの骨関連事象 (SRE) の対策も必要であり、乳がんサバイバーのヘルスケアとしてBone Healthは重要な課題となる。

近年、がん治療は患者のQOLを考慮した包括的治療が求められており、乳がん治療においては、乳腺外科による手術・薬物治療とともに、形成外科による乳房再建や緩和医療のケアなど複数の診療科の連携があげられるが、中でも、我々産婦人科医が乳がんサバイバーの診療にあたる機会は多くなっており、エストロゲン欠落症状の対策、Bone Health care、生殖医療の連携、遺伝性乳がん・卵巣がん (HBOC) の遺伝カウンセリング、TAM服用中の子宮体がん検査など、女性ヘルスケア全般を担うといえよう。

当院では、乳腺外科と連携した「乳がん患者のヘルスケア外来」を専門外来として設けており、ホルモン補充療法 (HRT) が使用できないエストロゲン欠落症状の対策として、カウンセリングや食事・生活指導、漢方療法、SSRIのほかエクオール含有食品の摂取を中心とした代替療法を取り入れている。また、CTIBL対策として骨粗鬆症治療を積極的におこなっている。

本講演では、乳がんサバイバーへの女性医学的アプローチとして CTIBL対策、Bone Health careについて最近の知見と当院の研究について、またエクオール含有食品を摂取した患者の使用経験について述べさせていただきたいと思う。

経歴

1993年 高知医科大学卒業
1995年 横浜市立大学産婦人科入局
1998年 横浜市立大学研究員 附属病院にて更年期・骨粗鬆症専門外来を担当
同年 よしかた産婦人科 副院長
2015年 横浜市立大学附属市民総合医療センターに『乳がん患者のヘルスケア外来』開設
2020年 横浜市立大学産婦人科 客員准教授
同年 よしかた産婦人科 院長

所属学会/資格

医学博士
日本産科婦人科学会専門医
日本女性医学学会専門医
日本骨粗鬆症学会認定医・評議員
マンモグラフィ読影認定医
NCPR/J-MELSインストラクター
日本骨代謝学会 日本内分泌学会 日本産婦人科乳腺医学会 日本栄養改善学会

受賞歴

2014年 日本女性医学学会 優秀演題賞